

令和7年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	栄村の豊かな農（食）振興事業
事業主体 (連絡先)	TSUNAGU TABI SYOKU 長野県栄村北信 3586-4
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（ア 特色ある観光地づくり）
事業タイプ	ソフト
総事業費	597,383 円（うち支援金：314,000 円）

事業内容

栄村では、平成25年頃から農業や食に関する情報発信が低迷している状況が続いている。こうした課題を受け、2024年10月の発足以降、SNSを活用し、動画を中心とした農（食）の情報発信に継続的に取り組んできた。また、関係者による会議を重ねながら、今後の栄村にとって必要不可欠な事業について議論を深めており、その具体化に向けて「元気づくり支援金事業」を活用し、下記事業の実施を進めた。① 農産物（食）の情報発信 SNS（動画）を活用し、栄村の郷土料理や野菜レシピを週1回（月4回）動画発信する。② 売れ残り野菜の活用直売所かたくりで破棄される野菜を加工し、令和7年度は加工品として宿泊・飲食業へ提供する。③ 農（食）の商品化 若年層をターゲットに、令和7年度は栄村の農をテーマにした手ぬぐいを制作・販売する。



【SNS 発信料理の様子】

【目標・ねらい】

1. SNS 発信を強化し、令和7年度にフォロワー3,000人を目指す。
2. 廃棄野菜を飲食販売に活用し、令和7年度に廃棄率を令和6年度比20%削減する。
3. 農（食）の商品化 若年層をターゲットにした手ぬぐいを制作・販売する。

事業効果

【① SNS 発信の成果】動画を中心とした SNS 発信により、視聴者の中心は20～40代の若年層となり、地域外からの関心も獲得した。フォロワー数は前年比7.5倍に増加し、観光人口・関係人口の創出につながったが目標の3000人まで至らなかった【②売れ残り野菜の活用】郷土料理を通じた世代間交流により、栄村の食文化や暮らしへの理解が深まり、関係人口の創出につながった。一方、廃棄野菜の活用による破棄率削減は達成できず、今後の課題となった。【③若年層向け商品開発の成果、食文化交流の成果と課題】「食」をテーマとした若年層向け土産としてぬぐいを開発・販売した結果、購入者の約8割が20～30代であり、若年層に訴求する地域商品の有効性を実証した。

※自己評価【C】

【理由】

当初設定した目標のうち、SNS 発信や若年層向け商品開発では一定の成果が得られたものの、フォロワー数の達成や廃棄野菜の活用による廃棄率削減には至らず、課題が明確となった。

今後の取り組み

当初は農産物の廃棄削減を中心に検討していたが、協議を重ねる中で、より広範かつ持続的な地域振興を図るためには、地域に蓄積される取組が必要であるとの認識に至った。その結果、住民の暮らしに根ざした農産物の消費や食文化に焦点を当て、動画制作および書物として記録・発信することを本事業の到達点とした。本事業については、物産館またたび、役場（農政課・観光課）、地域住民、観光協会との間で合意形成が図られており、制作成果を活用した商品化による収益化や、役場からの委託事業への展開、補助事業終了後も継続可能な体制を構築する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある